



女子アーチェリー部

それでも前を向く

インターハイ中止を自分の力に変えていく

飛躍を誓い練習に打ち込む星野爽来（鶴岡中央）
＝鶴岡市真木原公園南多目的広場



それでも前を向く
インターハイ中止 3年生の夏

アーチェリー女子 星野 爽来（鶴岡中央）

⑤

高校最後の1年で、照準は全国入賞に定まっていた。アーチェリー女子の星野爽来（鶴岡中央）だ。伸び盛りの有望株は悲願達成に向けて成長の階段を駆け上がった。自信が芽生えた中で、相次ぐ全国大会中止に落胆したが、今は「悔しさを競技者としての力に変えていきたい」と発言し、一層の飛躍を期す。

感じたからこそ向上心がより高まった。昔手な筋力トレーニングに向き合い、安定したフォームを追求。矢を射る動作も細かくチェックするなど、「練習量は誰にも負けないつもりで取り組んできた」との自負がある。それだけに全国高校選抜大会でインターハイの中止は「賞悟していたの持ち方など、全てが参考にな

この悔しさも強さに

確かな手応えはあった。昨年の県高校総体と東北高校選手権をそれぞれ制覇。初の全国高校総体（インターハイ）では決勝トーナメント進出も決め、高揚した気持ちに満ちた。一方で後悔もある。「この場で決めきれなかった。県選抜メンバーとして出場した昨秋の茨城団体も含め、全国レベルを肌で

けど、やっぱりショックだった。競技を始めた鶴岡四中時代は実績を残すことができず、練習に身が入らない自分に嫌気がさっていた。中学でやめるつもりだったが、高校受験で競技を離れた期間が魅力と向き直るきっかけになった。上達する喜びに改めて気付き、「高校でも続ける」。姉のように慕う国内屈指の実力者と練習をともにする機会は刺激になっている。今後も競技を続行し、さらなる高みを目指すつもりだ。伸びしろは十分だからこそ「もっと強くなって、国際舞台でも活躍できるようにしたい」。目標とするアスリートの背中を追って精進を誓う。（須藤）